

総合教育センターのリーフレット「主体的・対話的で深い学びとカリキュラム・マネジメント」には、授業設計をサポートするための授業設計診断が掲載されています。このコラムでは授業設計診断の4項目を踏まえた上で、各教科等におけるICTの活用に焦点を当てた診断を紹介します。ICT活用の効果は、機器の使用頻度ではなく、どのような授業場面でどう活用するのかによって決まります。この診断を単独で使用するのではなく、リーフレットの授業設計診断と併せて見てください。授業において、「主体的・対話的で深い学び」を支援する効果的なICT活用がなされているかどうかを、「★」から「excellent」に向かって確認してください。

この診断では、情報活用能力を育みつつ子ども一人ひとりの「主体的・対話的で深い学び」を実現しやすくするには、どのようなICT活用が効果的かを例示しています。ICTの整備状況によっては、十分な利用ができない場合もあるかもしれませんが、可能な範囲でより効果的にICTを活用した授業を設計してください。また、具体的な活用のイメージをもつことで、今後どのようなICT環境が必要なのか、校内での意見交換の材料としても活用できます。

■ ICT活用から見た授業設計診断

ICT活用 … 「★」

子どもの学びに、ICTを十分に生かしていない。

- ・ ICTを用いて分かりやすい提示、説明をしているが、本時の解や考えてほしい内容まで提示してしまう。
- ・ ICTの操作説明や、確認、または操作そのものに注力しすぎ、子どもがじっくり学習に取り組む時間がない。

ICT活用 … 「★★」

ICTが活用されているが、子どもの学びの質が高まりにくい。

- ・ ICTを活用した資料の提示や配付、インターネット等での情報検索を利用しているが、それだけで直接的な解や事実が得られてしまう。
- ・ プレゼンテーションなどの作成自体が目的となって、繰り返し見直して質を高める機会がない。
- ・ 考えやまとめをICTで共有しているが、互いに紹介するだけで終わってしまう。
- ・ ICTによるワークシート等が活用されているが、正解到達のためにスモールステップで解を求め、事実のみ記入させる構成になっている。

ICT活用 … 「★★★」

子どもの学びの質を高めるために、ICTの利点が活かされている。

- ・ ワークシートやICT活用が、子どもの学びを可視化し比較参照できるようになっており、学んだ結果が記録されていて、達成具合を知ることができる。
- ・ 解決に対話が必要で、ICTの活用も求められる課題設定をしている。しかし単に「ポスターを作ろう」のように、焦点化が不十分で教員のねらいから外れる可能性が高い。
- ・ ICTの活用によって多くの資料が与えられているが、俯瞰して比較したり統合したりすることが困難で、子どもは並べてまとめただけになってしまう。



ICT活用 … 「excellent」

子どもがICTを主体的に使い、深い学びにつながる活用がされている。

- ・ ICT活用によって課題や問いの焦点化がなされ、仲間と一緒に考えたいくなるような動機付けがされている。
- ・ 比較したり統合したりすることが可能な様々な資料がICTによって提供されていて、子どもなりの考えを創り出すことができる。
- ・ 子どもが学習の過程を見通したり、振り返ったりできるようなICT環境を提供している。
- ・ 授業開始時と終了時の学びの変容や、途中の過程、疑問などが記録されていて、ICTが次の学びや授業展開につながる評価ツールにもなっている。
- ・ 新たに生じた疑問など、子どもの主体的な学びの広がりに対応できる環境が想定されている。

■診断結果について

ICT活用の場面は、1つの授業の中で1つとは限りません。例えばある授業について、「ICTによるワークシート等が活用されているが、事実のみ記入させる構成になっている(★★)」が、「ICT活用によって課題や問いの焦点化や動機付けはなされている(excellent)」という2つの診断が得られる授業もあり得ます。また、必ずしもすべての活用が「excellent」になることは難しいかも知れません。それぞれの活用がより「excellent」に近づく工夫ができないかを検討してください。さらには、「excellent」であったとしても、常に授業改善の意識をもって授業設計に取り組んでください。

■授業におけるICT活用の利点と留意点

ICTには次に示すような特性があり、これを活用することで、子どもの「主体的・対話的で深い学び」を支援することができます。

- ・ 資料・情報を提示しやすい。
 - ・ 情報を収集しやすい。
 - ・ 情報をまとめやすい。
 - ・ 学習の過程や成果を保存しやすい。
 - ・ 即時性がある。
 - ・ 多様な教材を準備しやすい。
- 情報の可視化、共有、比較、改変がしやすい。

また、授業設計においては、ICT活用が「学習目標を達成するための活用になっているか」に留意することが重要です。さらに、効果をより高めるために、次のポイントもチェックしてください。

- ・ 提示する教材の見やすさは考慮されているか（拡大提示における明るさ、大きさなど）。
- ・ 内容によって適切な機器の選択ができていないか。
- ・ 必要以上に複雑な機器操作をしたり、させたりして、学習活動の妨げになっていないか。
- ・ 子どもの思考に沿って、自然な流れでICT活用ができていないか。

この「授業設計診断 ICT活用編」を参考にして、先生方の授業改善にICT機器をぜひ役立ててください。

